



梅雨が本格的となり、各地で田植えも終わられているようです。梅雨と言えばアジサイ。アジサイの花の色は、土壌の性質により、水色や赤紫になることはよく知られています。近年いろいろな種類があることに気がきました。私が好きな色は「白」です。うっすらと緑色が混じっているコントラストに、この上ない美しさを感じます。この「白い花のアジサイ」、実は、色素を意図的に抜いた品種改良によるものだそうです。連日の雨ですが、集中豪雨なく、そして時には晴れ間が覗くように、恵みの雨としてほどよく降ってほしいものです。



4年生 社会科見学(6月16日)から

梅雨の合間、晴天にも恵まれ、4年生41名が社会科見学を実施しました。目的は大きく2つです。

「①平和学習 ②集められたごみの行方とゴミ処理施設の工夫」です。

出発式の挨拶では、目と耳、そして心を研ぎ澄まして考えてほしい。真の学びに生かしてほしいという内容を話しました。

平和学習においては、長崎原爆資料館を見学し、原子爆弾投下による被害の映像や写真、説明を熱心に見入り、メモにまとめていました。そして、500m上空で爆発した爆心地公園、防空壕跡、長崎平和公園を見学しました。平和公園では、平和の泉、世界各国から送られたモニュメント、浦上刑務所跡等についてガイドさんから説明を受けました。平和祈念像前では、平和への願いを込めて全校児童で折った千羽鶴を捧げました。それぞれに深い意味があること、願いが込められていることを学んだことと思います。

午後は、諫早市の県央県南グリーンセンターを見学しました。深江町のゴミは、島原市の「東部リレーセンター」にいったん集められ、まとめて諫早市に搬入され、処理されています。

焼却する際、ダイオキシンの発生を防ぐため、高温のガスでゴミを溶かして処分していること、アスファルトの原料となるスラグ、金属の原料となるメタルを取り出し、再利用し、資源を有効活用している施設だということ学びました。ごみの減量化と資源化を図りたいと、担当者は話されていました。

隣接した土地には、新しいゴミ処理施設が再建設されていることに驚きました。



<4の1 平和祈念像前>



<4の2 クリーンセンター>



<平和の泉>



<平和公園：浦上刑務所跡>



<折り鶴を捧げる>



<爆心地公園>

ブループロジェクト「アマモの種取り」 6月19日(月)から

6月19日、漁業組合長吉田さんを始めとした「深江ブループロジェクト」活動組織の方々と、5年生31名によるアマモ学習パートIが行われました。当日は、南島原市水産課の職員のみなさんも来校されました。また、今回は、昨年度オンラインで学習会を行った長崎大学ダイビングサークルISANAの学生3名、研究グループを代表して安藤さんを実際にお迎えして、対話式で学習会を行いました。

大学生は、海藻類が減ってくる磯焼けを防ぐための「ウニ駆除」を行い、自然豊かな海を守る努力をしていること、「危険な海洋生物」や学生生活の様子等について話してくださいました。大学生活についても興味を示していた5年生でした。

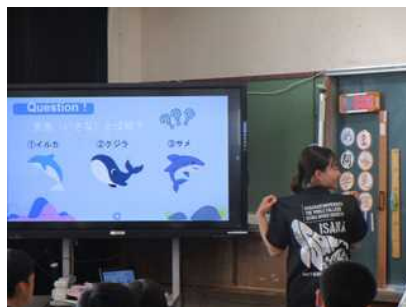
長年、藻場の再生研究に取り組んでいらっしゃる安藤さんは、全国で700カ所の取組があることを紹介。なぜ、アマモ再生に取り組むのか。豊かな海を再生することは、同時に二酸化炭素を減らし酸素を増やす、地球温暖化を防ぐことにつながるなどのお話をしてくださいました。

深江ブループロジェクト代表の吉田さん、小波さん、松本さんは、深江の海やプロジェクトの活動内容、藻場・アマモについて説明してくださいました。「『ISANA』の活動と深江ブループロジェクトの活動は、SDGsの目標14にある『海の豊かさを守ろう』と同じ目標。生活にとって重要な環境であるということを知り、考えて行動していけるようになってほしい。アマモのことを知って、海がどう変わっていくのか感じてほしい。」と伝えられました。

午後は、船川の海岸へ行ってアマモの種子採取にチャレンジしました。昨年度、6年生が種まきをしており、アマモの成長が期待されます。また、アマモと同様に水質浄化に役立つアサリを捕まえ、濁った海水が透明になる様子を観察しました。アサリが育てられているところの水質がきれいと感じる児童もいたそうです。



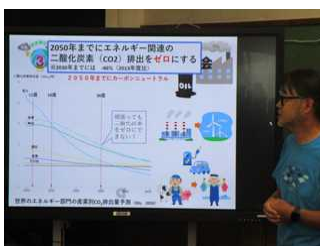
<ゲストティーチャー自己紹介>



<ISANAの活動紹介>



<吉田さんの話>



<安藤さんの話>



<アサリによる海水の浄化作用>



<藻場の再生の様子>



<ISANAのみなさんからいただいた葉>



<自然豊かな海を背景にして>